

主任者 コーナー

平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会 (第 54 回放射線管理研修会)のご案内



放射線安全取扱部会
部会長 宮越順二

今年は、放射線安全取扱部会へ名称変更して、2 回目の年次大会です。以下に、年次大会の概要について紹介いたします。

平成 25 年度放射線安全取扱部会年次大会(第 54 回放射線管理研修会)は、11 月 14 日(木)、15 日(金)の両日にわたって、鹿児島市の鹿児島市民文化ホールにて開催いたします。大会のメインテーマは、「どら、きばんなら! 共に」です。意味は百島則幸実行委員長の説明(8 月号)で、よく分かりました。何事も皆の協力があってこそ、物事は進むのです。

初日午後には、原口泉氏(鹿児島県立図書館長)から、「明治維新と現代日本」と題して特別講演が行われます。原口氏は日本近世・近代史を専門とし、NHK 大河ドラマの時代考証や多数の著書など、多方面で活躍され、歴史研究を通しての講演が楽しみです。さらに、初日午前には、毎年の特別講演として、原子力規制委員会原子力規制庁放射線対策・保障措置課の南山力生氏から、「放射線安全行政の現状と原子力規制庁」として、放射線規制の現状が紹介されます。

一昨年(2011)年の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故以来、我が国の“放射線”に対する意識は、今も高くとどまっています。初日の午後には、シンポジウム「母親、子供たちに伝えたい放射線教育」を石窪奈穂美氏(消費生活

アドバイザー)がコーディネータとして、4 名の女性講師による放射線教育の在り方、問題点などが紹介されます。女性の視点からの放射線教育として、大変興味深いシンポジウムです。2 日目午前のシンポジウムは、「福島の放射線環境～その現状と課題」です。6 名の専門家がそれぞれの立場から福島での課題を紹介します。また、2 日目午後には、シンポジウム「次世代 RI 施設へのロードマップ」として、将来を見据えた放射線施設や管理が紹介されます。

ポスター発表について、今回は、説明時間を設けることにしました。初日の相談コーナーをはじめ、2 日間にわたって、機器展示や書籍コーナーも設けられます。活用していただければ幸いです。最後に、大会のまとめとして、それぞれのシンポジウムとポスターをまとめた解説と質疑応答のセッションを設けます。最後まで参加を賜りますようお願い申し上げます。

放射線に関する公共の安全・安心の確保に寄与することが、部会の目的の 1 つでもあり、この年次大会が、その役割を演ずることができる機会と確信いたしております。現在、九州支部を中心とした実行委員会の皆さんは、大会開催へ向けて精力的な準備を進めております。末筆ながら、ここに年次大会のご案内とともに、多くの方々が鹿児島の地へ参集されることを心から願っております。(京都大学生存圏研究所)